

〈研究成果の紹介〉

水稲の無代かき直播による省力栽培

伊賀農業センター

1 成果の内容

現在の稲作栽培では、育苗及び代かき、移植作業などに最も労力を要しています。そこで、これらの作業を省略できる水稲の無代かき直播栽培方法について明らかにしました。

その耕種概要は、①冬場の荒起こしと播種前に耕起し、施肥も同時に行います。②播種後土塊の崩壊による覆土効果と出芽の促進をねらい、1日間湛水状態とし、その後落水します。③播種後8～10日後に出芽を確認してから再び入水します。④入水後、除草剤を散布し、いもち病や害虫の予防に努めます。

注意点として冬場に荒起こしをしないと、播種前耕起後の土壤水分が高いことから入水後速やかに土塊が崩壊せずその覆土効果が期待できません。やや土塊が細くなるよう耕耘爪の回転数を上げて耕起し、6 cm以上の土塊が残らないようにします。品種はキヌヒカリが適し、倒伏も少なく収量・品質ともに安定します。種子は播種後入水することから、催芽剤をカルパー粉衣したものを用います。播種方法は散播がよく、播種量は100～200粒/m²とし、60～150本/m²の苗立を確保することで50 kg/a以上の収量が得られます。播種時期が早いと苗立が安定しないので、地温の高くなる5月上旬以降に播種を行い、茎数確保の面から5月中旬までに播種します。肥料はLP70日タイプ(N:0.432 kg/a)+LPSS100日タイプ(N:0.288 kg/a)の緩効性肥料の全量基肥が可能です。

2 技術の適用効果と適用範囲

(適用効果)代かきを行わない条件での直播栽培法を導入することで、現在の機械移植に代わり労力軽減と低コスト化に大きく貢献すると考えられます。

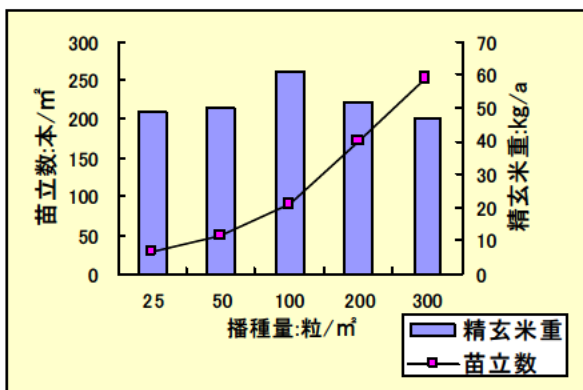
(適用範囲)伊賀地域等の縦浸透による漏水がない重粘低湿土地帯に適用できます。

3 普及利用上の留意点

湛水後も減水深の大きい水田では利用できません。

耕起前に畦畔際に発生したイボクサは、耕起だけでは除去できないので、その発生があるときは耕起前にバスタ液剤等で処理しておく必要があります。

(栽培担当 中山 幸則)



播種量と苗立数及び収量 (H7)



苗立の様子 (播種後 50 日)